

双葉町の復興に向けた取組について



双葉町・特定復興再生拠点区域復興再生計画の概要

(平成 29 年 9 月 内閣総理大臣認定)

「双葉町・特定復興再生拠点区域復興再生計画」に関連する 主な事業

平成 30 年度 (2018 年度)
以降、順次供用開始



中野の産業団地の整備

「新たな産業・雇用の場」の整備による
町への人の流れの創出

2019 年度の整備目標



JR 双葉駅と自由通路の整備

(仮称) 双葉 IC

復興シンボル輪 (アクセス機能確保)

交通インフラの整備と駅周辺等の先行的な
避難指示解除による往来環境の確保

駅周辺等の先行解除

東京オリンピック
パラリンピック

2020 年度の整備目標



産業交流センター

アーカイフ拠点施設

復興祈念公園 (一部)

情報発信拠点の整備による復興に関する
情報発信と町内交流人口の拡大

※写真はいずれもイメージです。

2021 年度の整備目標



駅西の住宅団地の整備

「新たな産業・雇用の場」と連携した
「新たな生活の場」の確保・「既成市街地の再生」

特定拠点区域全域の
避難指示解除

2022 年春頃まで
双葉町への帰還開始を目指す

計画に関連する 主な取組

- まちなか交流拠点の再生
- 営農再開に向けた取組
- 公共・公益施設の再整備
- 商業施設等の再整備
- 生活道路、電気・通信の復旧
- 上下水道の再整備
- 空き地・空き家等の活用 等



広域図 (双葉町全域)

計画期間	平成 29(2017)年 8 月～2022 年 8 月
避難指示解除の目標	2019 年度末頃まで 避難指示解除準備区域と駅周辺の一部区域の 避難指示解除による立入自由化 2022 年春頃まで 特定拠点全域の避難指示解除による居住開始
避難指示解除から 5 年後の居住人口目標	約 2000 人

双葉町内の復興・復旧の取組状況（2019年6月2日時点）



※掲載した画像は現時点での整備イメージを示したものです。

復興ツーリズムの形成

- 12市町村を中心に、震災の教訓や復興の現状を学ぶことができる、広域周遊ルートを形成し、人の流れを創出することが重要。
- 県アーカイブ拠点施設(2020年夏開業)や復興祈念公園(2020年夏一部利用)での震災学習、福島第一原子力発電所や廃炉資料館の視察など、12市町村の集客資源を有機的に連結する必要がある、各市町村の横連携や国県など関係機関のご協力が不可欠。
- 外国人観光客を含む来訪者の周遊促進には、自家用車以外のモビリティ手段確保が欠かせない。(例:カーシェアリング・コミュニティサイクル)

浪江・双葉・大熊における一例(イメージ)

